

事業名 地域住民との意見交換会 「おしゃべりパーティー」

事業の概要

旧ＪＡ山口宇部管内にある直売所「新鮮館」2店舗の利用者から准組合員や地域利用者を中心にモニターを募集し、意見交換会「おしゃべりパーティー」を年2回開催。
直売所「新鮮館」の職員や出荷者が准組合員と同じテーブルにつき、食や農に関する意見交換をする。地元農業を知ることによって応援団になってもらうとともに、出された意見をよりよい直売所づくりに生かすという狙いがある。

背景・経緯

准組合員や地域住民の意思反映や事業参画を進めるため、平成28年度からスタートした。毎回20人前後の参加者があり、これまでの参加者は延べ100人超。地域に根差した協同組合としての発展を目指す上で、地域住民の声を事業に生かすことにつながる本事業は今後ますます重要になると考えられる。

事業のポイント

交流の場づくりで地域のつながり強化
モニターは指定の直売所で買い物を活用し、食材を購入。店舗や食材等をチェックし、消費者目線の気づきを店舗へ伝えている。消費者が食や農に関する思いを生産者やＪＡに直接伝えられる場となっている。

様々な工夫で関係性づくり

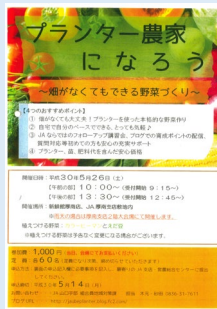
おしゃべりパーティーでは、おいしいお菓子と飲み物を提供。会話を引き出すアセスメントとなり、様々な意見が出やすい環境づくりに貢献。イベントごとに配られているＪＡオリジナル軍手には「地元農業応援し隊」のロゴが印刷してある。担当者は「地域農業を応援する見える化が大切だ」と語気を強めていた。

事業の効果



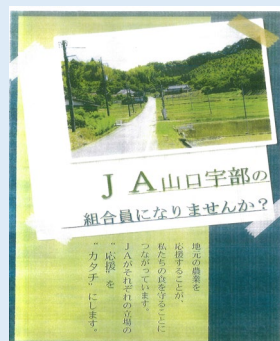
おしゃべりパーティーは、少人数の話しやすいグループで進行。各グループの進行役と書記役はＪＡ職員が担当する。直売所出荷者も参加し、農業への思いなどを伝える場になっている。モニターから出された商品・レイアウト・サービス・情報発信は、直売所運営に反映される。消費者、生産者の垣根をなくし、地域に愛される店舗を目指す。

連携する事業等



ＪＡ自己改革の実践として、地元農業の応援団を増やす多様な取り組みが進められている。

将来性・発展的展開



参加した利用者の間では、直売所の商品の品質や安全性に対する信頼度は高い。一方、日常生活の中で手軽にＪＡの情報を入手したいという意見が多いことから、今後はfacebookだけでなく、LINEでの情報発信なども検討している。直接的な交流とともにソーシャルメディアを活用することで、地域全体を包含したコミュニティ形成に取り組む。